



社会医療法人 あさかホスピタル ASAKA HOSPITAL



Mental Health Recovery and Community Involvement

病院を拠点としたグループ展開

当院は「安積保養園」として昭和38年3月に開設され「愛情・奉仕・和・進歩」の基本理念を元に「地域の方々の健やかな心と幸せのために、全人的で、先進的な医療・保健・福祉を提供する」ことを使命としています。

診療科は、総合心療科(精神科・心療内科・児童精神科)・脳神経外科・内科・神経内科・歯科から成り、精神科領域は就学前から思春期の発達障害をはじめ、統合失調症、うつ病、ストレス関連障害、そして認知症まで幅広く対応しています。精神疾患を持つ方の血液透析や全身麻酔下での修正型電気痙攣療法も行っています。

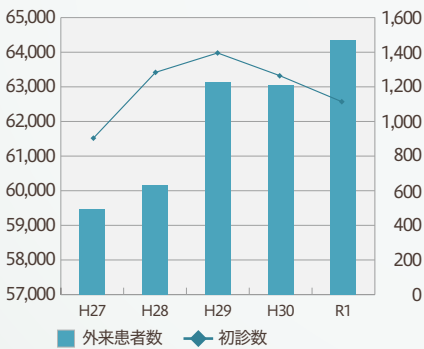
患者様がリラックスできる療養環境を目指し、アメニティーに力を入れ、平成12年には日本医療福祉建築賞も受賞しています。MRI、CT、超音波、骨密度、迅速な血液検査体制などを整え、平成12年にオーダリング、平成17年から電子カルテを導入し、画像も全て電子化し、質の高い医療を目指しています。平成14年より医療機能評価の認定を受けています。

令和2年9月に新棟が竣工し、病棟は9病棟・稼動病床は470床で、精神科救急病棟、児童思春期病棟、ストレスケア病棟、認知症治療病棟、精神療養病棟、合併症病棟などに機能分化しています。職員は550名を超え、看護師、薬剤師以外に精神保健福祉士、作業療法士、公認心理師をはじめとしたメディカルスタッフが100人以上在籍していることが特徴です。各専門領域でチームを構成し、必要な医療・保健・福祉・介護の適切な支援を効率的に展開できるよう、質の高い人材の確保と育成に努めています。

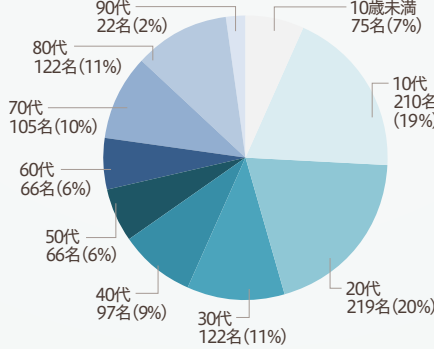
あさかホスピタルの最も大きな特徴は、病院が拠点となり、社会福祉法人安積愛育園、社会福祉法人安積福祉会、NPO法人アイ・キャン、有限会社アサカサービスセンターの4つの法人と1つの会社があさかホスピタルグループとして協力し、グループ共通の信条であるクレド「**Hear the bird sing** (心の声に、耳を澄まそう)」を掲げ、領域ごとに包括的なチームを形成して医療・保健・福祉・介護を全職員で実践・展開していることです。

診療実績

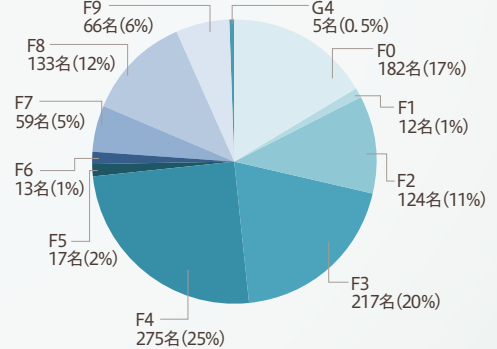
外来患者数・初診数の推移



令和元年度 初診患者 年代別



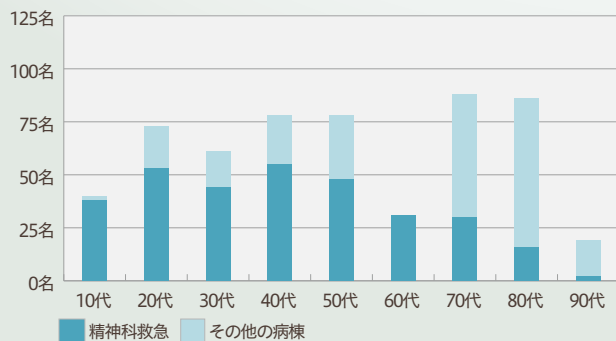
令和元年度 初診患者 疾病別



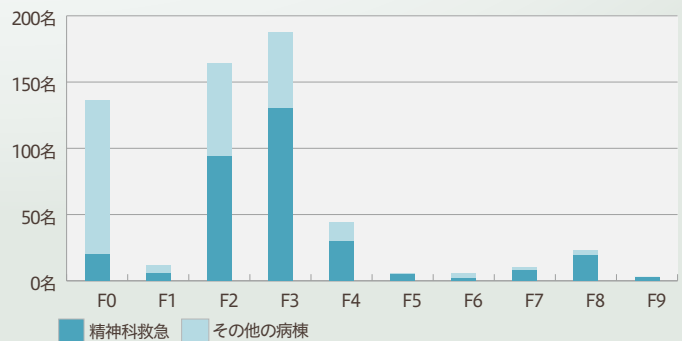
令和元年度 病棟実績

	稼働率	平均在院日数	新規入院患者数	入院形態内訳				
				医療保護	任意	措置	応急	鑑定
全病棟	93.6%	266.2日	592名	350名	222名	10名	8名	2名
精神科救急 ※再掲	88.0%	63.8日	317名	209名	90名	10名	6名	2名

令和元年度 年代別 新規入院患者数



令和元年度 疾病別 新規入院患者数



6つの専門領域で、包括チームを形成

当院では統合型地域精神科治療プログラム(OTP)に基づき、平成14年から長期在院者の地域移行/地域支援を行ってきました。回復期病棟、外来、デイケアセンター、訪問看護ステーション、NPO法人アイ・キャンがチームとして、本人の自己実現のために医療、生活支援、社会参加、就労までを包括的に支援しています。この「ささかわプロジェクト」は平成28年6月の第112回日本精神神経学会学術総会において、優れた医療実践を行ったとして「精神医療奨励賞」を受賞しました。

誰もが幸せに、共に生きる社会づくりを目指してあさかホスピタルグループが一体となって取り組む事業です。本宮市の農場Kふぁーむでは就労支援や障害理解、再生エネルギーの取り組み、食材を生かした農場レストラン、郡山市朝日のレストラン「パル・イルチエントロ」、安積町の「パン工房フォノフォノ」、など、食を通して就労支援と地域との交流の場を創造し、共生社会のモデル的事業を展開しています。

また猪苗代町には築130年の酒蔵を再生したアール・ブリュット、障害者アートなどを対象とする「はじまりの美術館」を展開し、展示やイベントを企画し地域の方々と共に様々なワークショップも開催しています。

認知症の随伴症状と合併症への専門的治療を中心に、地域生活支援から入所まで医療・介護を包括的に提供しています。メモリークリニック、重度認知症デイケア、認知症治療病棟、合併症病棟、透析センター、介護老人保健施設啓寿園、訪問看護、地域包括支援センターは勿論、安積福祉会の運営する3つの特別養護老人ホームと1つの介護付有料老人ホームが連携し、地域に根ざした支援体制を行っております。また、認知症疾患医療センターも運営しており、障害者の高齢化対策や高齢化社会での障害者の役割の創出なども含め、地域のあり方についても検討しています。

精神科救急における地域の拠点病院として中心的に機能することを目指しています。多職種がチームとして薬物療法と心理社会的リハビリテーションを組み合わせた質の高い統合的な医療の提供を目的としています。クリニカルパスに基づき短期間で治療効果を上げるために、病院の多職種スタッフと、地域支援チームとが早期から連携し、薬物治療と急性期のリハビリ、そして適切なケアマネジメントで早期退院を目指しています。

うつ病治療をより専門的に、統合的に行うことを目的として、ストレスケア病棟、サテライトのあさかこころクリニックとリワークデイケアに加え、あさかストレスケアセンターとして企業のメンタルヘルスを行うEAP(Employee Assistance Program)やカウンセリングルームを運営し、地域・企業に向けて、メンタルヘルスの予防、早期介入、医学的治療、復職支援までを包括的に行っています。

近年、最も精神科領域で地域のニーズの高い児童精神科領域の診療体制の確立のため、病院でのこどもの心外来、児童思春期病棟、作業療法士・公認心理師・言語聴覚士によるリハビリプログラム、児童思春期デイケア、入所・短期入所・相談支援・児童発達支援・放課後等デイサービスなどを行う総合児童発達支援センターアルバとパローネがチームとして、ご家族様とともに市や学校・幼稚園と連携し、専門性の高い支援を提供しています。



関連施設のご紹介(一部)



新棟(令和2年9月～)



精神科救急病棟
(プレッソ病棟)



総合児童発達支援センター
アルバ



あさかストレスケアセンター
(EAP・ストレスチェック・カウンセリング)



はじまりの美術館



ASAKA HOSPITAL

社会医療法人あさかホスピタル

福島県郡山市安積町笹川字経坦45

理事長・院長 佐久間 啓

開設 1963年3月 許可病床数 470床

お問い合わせ あさかホスピタル事業企画グループ

Tel 024-945-1701

Mail group@asaka.or.jp



asaka.or.jp